

ボツリヌス治療についての説明

ボツリヌス治療とは、ボツリヌス菌から産生される「ボツリヌストキシン」の筋肉の働きを抑制する作用を利用した治療です。

◆ボツリヌストキシン製剤とは

この薬剤はボツリヌス菌が産生する「A 型ボツリヌス毒素(天然のタンパク質):ボツリヌストキシン」を有効成分とする薬です。様々な研究の結果、このタンパク質のごく少量を緊張している筋肉へ直接注射すると、その筋肉がゆるみ、緊張や痙攣がおさまる効果があることから医薬品として利用されるようになりました。ボツリヌス菌を注射するのではなく、その中のタンパク質を投与するのでボツリヌス菌に感染するという危険性はありません。

◆歯科における治療方法

歯ぎしりや食いしばり、これらに伴う顎関節症などは、食物を食べる際に使う咀嚼筋が過度に緊張することが原因となって発症します。ボツリヌス治療は、これらの咀嚼筋(咬筋、側頭筋、オトガイ筋など)に局所注射することにより、筋肉の過緊張を弱めることで症状の改善を図る治療方法です。

- ・顎関節症の緩和
- ・就寝中の歯ぎしりの緩和
- ・歯ぎしりによる歯の損傷防止
- ・咬合圧による歯の補綴物の脱離、破損、マウスピースの破折防止
- ・食いしばりの緩和
- ・食いしばることで生じる肩こり、頭痛などの改善
- ・ガミースマイルの改善や口角挙上治療

◆治療効果

治療効果は2、3日～2週間で現れ、通常4～6ヶ月程度持続しますが個人差があります。その後、時間が経つにつれて徐々に効果が消失し筋肉の働きが回復してくるため、注射前の状態が再び現れてきます。この場合、ボツリヌストキシンを再投与することにより同様の効果が得られます。この薬剤はタンパク質が主成分であるため、繰り返し投与をすることでごく稀に体内に抗体がつくられ、効果が減弱することがあります。

◆副作用・注意点について

- ・本治療は、A 型ボツリヌス毒素(ボツリヌストキシン)製剤を使用した治療ですが、ごく微量の局所注射ですので、人体には無害です。ボツリヌス毒素の人体に対する致死量は筋肉注射の場合 3,000～30,000 単位です。この治療法での使用量は 10～160 単位です。
- ・ボツリヌストキシン製剤にはヒトに由来する微量の血漿タンパクが含まれており、その製造過程では加熱処理や十分な検査がされていますので、肝炎やエイズなどの感染症にかかることはありません。しかし、現在の医療ではまだわかっていない疾患やクロイツフェルト・ヤコブ病(狂牛病)などの感染の危険性はごくごくまれですがあることを理解して頂くこととなります。ボツリヌス治療は1977年に米国で初めて斜視の患者さんに使用されて以来、緊張した筋肉を和らげる治療薬として普及し、FDA・KFDA の承認も受け、年間約 200 万件以上使用されていますが、感染の報告は皆無です。
- ・注射後は強くこすったり、押さえたりしないでください。局所の反応として、注射部疼痛(4.4%)、筋痛

(4%)、かゆみ(4%)、発疹(1.7%)などがありますが一時的なもので注射した箇所の周りに限られません。

- ・施術後に多少の赤みや腫れ、内出血、頭痛(側頭筋投与の場合)が残りますが、数日～1週間程度で落ち着きます。
- ・ごく稀に脱力感、筋力低下、めまい、視力低下、感染症状やアレルギー症状が出現することがありますので、体調の変化を感じ心配なことがあった際はご連絡ください。
- ・施術当日のお化粧、飲酒、長時間の入浴は避け、洗顔もこすらず優しく行ってください。
(来院の際は、注射部位付近のお化粧はせずをお願いします。)
- ・ボツリヌストキシンの効果が強く出現したり、意図していない筋肉に作用したりする場合、見た目の違和感や表情の動かしづらさを感じる場合があります。(例:まぶたが重い、眼が開きづらいなど)
- ・稀に抗体を持っている方がいます。その場合、効果が出にくかったり出ないこともあります。

◆この治療を受けられない方

- ・妊娠中および授乳中の方は、胎児および乳児に対する安全性が確立されていないため治療を受けられません。また、妊娠をする可能性のある方は、ボツリヌストキシン製剤の投与中および最終投与後の2回の月経を経るまでは避妊するようにしてください。
- ・男性は、ボツリヌストキシン製剤投与中および最終投与後の少なくとも3ヶ月は避妊するようにしてください。
- ・下記の方は治療を受けることができません。持病のある方は必ず医師へ申告して下さい。
 - ▶20歳未満の方
 - ▶献血(血液の提供)予定のある方
 - ▶この薬剤を以前に使用し、発疹などのアレルギーを経験したことがある方
 - ▶アレルギー体質の方
 - ▶重度の筋力低下がある方、筋肉の萎縮のある方
 - ▶全身性の筋肉の病気の方(重症筋無力症、ランバート・イートン筋無力症症候群、筋萎縮性側索硬化症の方)
 - ▶ステロイド治療をされている方、糖尿病、喘息などの呼吸器疾患、緑内障の方は主治医へご相談ください
 - ▶治療後、ごくまれに不整脈や心筋梗塞などの心臓関連の症状があらわれることがあります。これらの症状とボツリヌストキシンとの関連性は不明ですが、このような症状が現れた場合には主治医へ連絡して下さい。
 - ▶使用中の薬剤は、市販薬も含め主治医へ申告してください。特にアミノグリコシド系抗生物質、パーキンソン病の治療薬、筋弛緩薬、精神安定剤などの投与を受けている方は主治医に必ず申告し、指示に従って下さい。これはボツリヌストキシン製剤とこれらを同時に使用すると効果が強く現れることがあり、十分な観察のもとで投与を行う必要があるためです。状況によっては治療を受けられないこともあります。
 - ▶他の医療施設でボツリヌストキシン製剤の投与を受けている場合は、治療対象疾患および投与日、投与量を必ず主治医へ申告してください。

◆治療費について

ボツリヌス治療は保険適応外(自由診療)です。費用は1回3万円(税込)となります。

保険適応外ですが、当院での治療は美容医療目的ではないため医療費控除対象となります。

治療後に発行される納入通知書兼領収証書(承認書)は大切に保管されてください。(再発行はできません。)